

平成23年度
第4回 羽黒地域審議会
会議録（概要）

期 日 ： 平成23年11月22日（火）

場 所 ： 羽黒公民館 2階講堂

平成23年度 第4回 羽黒地域審議会会議録 (概要)

○日 時 平成23年11月22日(火) 9時30分～

○場 所 羽黒公民館2階 講堂

○出席委員(順不同)

林 茂生、太谷 眞一、高田 志郎、金野 信勇、佐藤 進、島津 慈道、山田 鉄哉、
齋藤 良幸、星野 博、山口 平、本間 信一、阿部 良一、佐藤 繁明、梅津 久美、

○欠席委員

山田 勝実、小南 孝子、富樫 篤、天野 俊秀、庄司 祐子、

○市出席者

羽黒庁舎 支所長 真田 昭良、総務課長 榎本 光男、市民福祉課長 山口 弘男、
健康福祉主幹 佐藤 き江、産業課長 岩城 公志、観光商工室長 五十嵐 満、
建設環境課長 阿部 寛、分室教育課主幹 佐藤 茂巳、
総務課課長補佐 佐藤 潤到、総務課係長 佐藤 繁義、
総務課主事 成沢あかね、総務課主事 佐藤 良、総務課主事 茂木 政信、
本 所 企画部長 秋野 友樹、企画調整課主査 佐藤 豊、企画調整課 伊藤 弘治、
地域活性化推進室長 吉住 光正、地域活性化推進室係長 三浦 裕美、

○次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

(2) 鶴岡市国土利用計画の策定について

(3) 協議テーマ「観光地羽黒の更なるステップアップを目指して」に係る提言書
(案)について

(4) その他

4 閉 会

【会議の概要】

1 開 会 (9時30分) 総務課長

2 あいさつ

<支所長>

11 月半ばを過ぎて冬の寒さが訪れてきた今日この頃ですけれども、皆さんには大変ご多用中のところご列席を賜りましてまことにありがとうございます。

この羽黒地域審議会は、昨年の 6 月に皆さんに委員として委嘱を申し上げまして、任期が 2 年ということで、来年の 6 月までということになりますけれども、今年度の審議会は、本日の 4 回目の審議会が最後ということと考えております。審議会の設置の目的、所掌事務ということでは、合併に関わる新市建設計画に関して、あるいはその他市長が必要と認める事項について、諮問に応じて審議をするということになっております。今回の審議会では、市長が必要と認める事項、特に地域課題についてご審議をいただきたいということで、羽黒地域では「観光地羽黒の更なる発展を目指して」というテーマを設定していただき、昨年度 4 回、今年度は本日を含め 4 回の協議をお願いしてきたところでございます。本日は提言書の取りまとめの会議になろうかと思いますが、今回提言をいただきました内容につきましては、来月の 15 日に 6 地域一緒に市長に提言書として手渡しをするという予定になっております。その他本日は次第にもありますように、総合計画、実施計画、国土利用計画に関しても、皆様方に説明申し上げて、意見をいただく予定でございますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

<佐藤会長>

皆さんおはようございます。朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。

12 月の声を聞きますけれども、予算とか、計画とか出てきております。今日の議題の中にもありますけれども、1 番目、2 番目はそういった内容になっております。それと 3 番目は去年から審議してまいりました提言書についてであります。今日は最終的な意見の調整ということになります。色々と議論あった中で、追加とか、これは要らないのではないとか、議論していただきたいと思っております。幸い、事務局の方からまとめてもらったものが事前に届いております。そういったことで目を通していただいたものとして、進行していきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

3 協 議

(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

(2) 鶴岡市国土利用計画の策定について

資料に基づき一括で説明

(質疑応答)

<斎藤副会長>

創造文化都市推進に関してなんですけれども、1つはユネスコ創造文化都市の推進、今までこういった計画は全て上滑りで終わっているような気がするのです。今までの計画ですと、地域の住民がユネスコの食文化創造都市とはどういうものなのか、どういう形で展開していくかということを知らないままに推進しているのが現状じゃないかと思うのです。今回たまたまユネスコ創造文化都市の推進の一環として、出羽三山の精進料理を世界に向けて発信してきたわけですが、一般の市民に知らしめるために、そういう状況があったときに、出羽三山の精進料理とはどういうものなのか、行ってどういう情報を交換してきたかとか、新聞紙上にはある程度でているのですけれども、そういうものをつまびらかに住民の方に浸透させる必要があると思うのです。実は、パリ、ブタベストに行く前に、是非地元の人に、出羽三山の精進料理がどういうものかを認知してもらおうとしたのですが、中々上手くいかなくて、是非そういう機会を数多く作って欲しいというのが1つです。

それからもう1つは、農商工連携の部分になりますか、いわゆる農林水産業の6次産業化の推進というのが出ていますけれども、これは今話題になっておりますTPPの問題も含めて色々な案を提供してくれると思うのですが、今まで農業をここまで引っ張ってきたのは農協さんだと思うのです。6次産業化というのは農協さんの今やっている事業と、まるっきり対峙する方向ではないかと私は考えております。この6次産業化を推進することと、現在の農協さんの整合性をどうやってつけていくかをお聞きしたいと思うのですが。

<企画調整課 佐藤主査>

最初のユネスコの関連でありますけれども、ご指摘に関しましてはもっともだなと感じたところであります。情報提供につきまして、やはり市民の方に積極的に提供しながら、市民の方の理解を得ていかないと、上手く進まないだろうと思っておりますので、その辺については何とか状況等を伝えてまいりたいと思っております。

それから6次産業の関連でご質問をいただきましたけれども、私のほうでは農協さんとの整合性については把握していないのですが、これまでは、農業者が作って農協に出すだけという取り組みをこれまでされてきたかと思っておりますけれども、やはり、これからは加工、流通販売も必要ではないかというご意見の中で、こういった動きが展開されているのだろうと思っております。市としては、そういったところの調整を踏まえながら、6次産業化に取り組んでいかなければならないという風に思っておりますけれども、農協さんとの調整につきまして、これは農林サイドの調整作業になるかとは思っておりますけれども、その辺適切に進められていくように話をしてまいりたいと思っております。

<斎藤副会長>

私の話し方が良くなかったのかもしれませんが、6次産業化の推進というのは、私自身は大賛成なのです。ただ、農協さんが今行っていることは、まるっきりこれと同じことになるわけですね。今まで農協さんが農業を先導してきたという部分が、ある意味ではあるわけなので、その辺の整合性をつけないと上手くいかないのではないかと感じたも

のですから。それで質問したのです。

<企画調整課 佐藤主査>

農協さんの取り組みと矛盾しないような形で、協調するべきだろうと私も思います。

<本間 信一委員>

先ほどの建設計画の件につきまして、総合計画に引き継がれるというお話を聞きました。この件につきましては度々この審議会でも出ていまして、ようやく示されたという状況であります。それで、この羽黒地域の関係を見ますと、裏面の方に実施状況が書いてあります。未実施というのが8つほどありますけれども、別の計画はわかりませんが、この中には合併するとき、当初は南部ということで三川さんの入った計画だとか、その後抜けて大きくは変わらないということできたようですけれども、その辺精査して作るのであれば、未実施というのが減ってくると思いますので、そこも検討してもらいたいと思います。それと未実施につきまして、今後どのように進めていくのか。もう残すところわずかでありまして、総合計画にどの程度引き継がれているのかも含めてお話いただければと思います。

<企画調整課 佐藤主査>

最初のご指摘につきましては尚ご確認させていただきたいと思います。

あと、この建設計画の考えにつきましては、先ほどもご説明させていただきましたけれども、今現在総合計画が策定されまして、その計画を推進するために実施計画を策定しまして、毎年ローリングをかけて策定しているところであります。その内容につきましては、合併時、建設計画ということで計画されたものが上がってきているわけですが、そのことについて実施計画、あるいは毎年予算査定ということで、予算措置をすべき事業について検討しているわけですので、そういったところで盛り込まれていると、理解しています。

<本間 信一委員>

そうした時に、支所長から1回お話あったわけですが、建設計画の変更なり、あるいはローリングの中で総合計画に入らなかったり、そういうものがあるとするならば、当然審議会の中で協議したり、その辺のことは必要ないのかどうか。これはこの席上で何回も出ておりましたし、この建設計画というのは羽黒地域の人たちには知れ渡っているわけです。それがやれないとすればやれないと、あるいはこうだと、地域の中で議論して、そして進めるというのが本当だと私は思うのです。それが鶴岡の総合計画の中で議論して、これはやらないだとか、予算がつかないだとか、言い方は失礼なのですが、上から目線の関係で削除されては大変困ると思うので、その辺のいきさつなり、情報開示なり、色々審議会の中で議論するのが必要だと思うのですが、その辺の考え方についてお聞きしたいと思うのですが。

<企画部長>

企画部長の秋野でございます。建設計画の変更について議論したらどうだというお話で

したけれども、今現在建設計画を変更するという形での議論をするということは考えておりません。合併後に新市の総合計画という形で作られておりますので、それに沿って建設計画も踏まえながら、それぞれの事業を優先度とか、熟度とか、期間的なものだとか、あるいは予算的なものだとか、そういったものを踏まえつつ事業を進めているところでございます。現在半分を過ぎたという状況でございますので、今後どうして行くかということについては、検討を深めていきたいと考えております。

<本間 信一委員>

今、企画部長のほうから変更は余り考えていないというお話を伺いましたので、良かったなと思います。ただ、財政的な問題というのが大きく引っかかってくると思うので、それにつきましては、随時情報を開示していただいて、ご理解いただけるようなことで進めていただければと思いますので、その辺よろしく申し上げます。

<大谷 眞一委員>

総合計画書の 17 ページでございますけれども、新たなエネルギー対策の推進の 3 つ目、再生可能エネルギーの調査検討の中の太陽光の利用ですが、山形県の市単位の中でも、鶴岡市だけが補助対策が無いわけです。太陽光の力強い発展をするためにも他の市、町並みに補助金を支出するような対策をとってもらえないでしょうか。お願いしたいと思います。

<企画調整課 佐藤主査>

今、太陽光発電への補助のご提言をいただいたわけですが、県内で鶴岡市だけだという部分につきましては、先日こちらの方で確認したところでは、他の市町村においても実施されていないところがあるように見受けられました。また、本市の考え方でありませんが、発電効率を考えたときに、太陽光発電についてはあまり良くないというデータもございますので、補助の導入を含めまして太陽光発電を市として積極的に進めていくかどうか、それにつきましては、地域エネルギービジョンの策定ということであげておりますので、そういったところで方向性について検討していきながら、太陽光についても考えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

<佐藤会長>

19 ページの婚活にむけた活動への支援ということで、未婚化、晩婚化と載っておりますけれども、その中で婚活イベントという形なのですが、これは結構民間でもやっているところがありまして、それでも中々進まない。それが原因というわけではないのですが、結婚するためには土地や住宅、子育てのしっかりとした支援体制というか、そういったものがないと中々鶴岡に来て結婚して子供作ろうかとならないものですから、だんだん税金が減ってくる中、何か斬新な鶴岡独自の結婚支援を作って、鶴岡に来たらこういった支援があるから結婚して子供作って生活してくださいよと。そういったアピールがあったらもっと良いかなという感じがします。それから荘内病院に関しては、色々議論があるところだと思うのですが、研修医は魅力ある病院に行きたいという傾向があるわけです。そうすると、研修医の方々は都会に行ってしまう。それでなかなか地方に来ない。そして帰っ

てこない。そういうわけなので、荘内病院が臨床研修医にとって魅力ある病院にするためには、プログラムを充実させて、鶴岡の拠点として、庄内、酒田に負けないような、研修医が来るような魅力ある荘内病院にしてもらいたいと思いますけれども、その辺何か意見あったらお願いします。

<企画調整課 佐藤主査>

今 2 つほどご意見いただきましたけれども、最初の婚活の関連につきましては、貴重なご提言ということで受け止めさせていただければと思いますし、2 つ目の荘内病院の充実というところでお話ありましたが、非常に的を射たお話だと思います。臨床研修医の確保といたしまして、ここに研修プログラムの実施とありますけれども、併せて本市には慶応の生命先端研究所がありますので、そういったメタローム研究など魅力的なところもあるのかなと感じておりまして、そういった本市の特徴をアピールしながら、人材を誘導できればと期待しているところであります。いずれにしても荘内病院というのは地域の安心の拠点といえますか、そういった機能を担うところだと思いますので、看護体制の充実も含めまして進めてまいりたいと考えております。

<佐藤会長>

よろしくお願いします。

検診に行く度に先生が変わっているとか、色々ありますのでその辺よろしくお願いします。

<本間 信一委員>

時間無いところ恐縮ですが、総合計画を推進するために市長さんを先頭にやっているわけですが、土産物なり農業関係など生産部門については色々載っているわけですが、やはり販売の関係が非常に重要ではないかなと思っているところでありまして、鶴岡地域には米にしろ、野菜、果樹にしろ、色々な産物があるわけですが、市長としてのトップセールスというのが非常にマスコミに賑わしているわけですし、非常に有効だということでもありますので、市長の考え方をお聞きしたいと思います。

それともう 1 点、28 ページの優良堆肥の生産を支える耕畜連携の推進と畜産の振興の中で、羽黒地域は最初の頃から堆肥センターを作りながらやっているわけですが、実はここに来て堆肥の生産はやっているが、使う方が少なくなってきており、堆肥が余っているという状況であります。この辺は羽黒地域だけではなくて、藤島地域にもあるわけですが、鶴岡全体で包括した状態で土づくりを進めながら農産物を市長として販売していくということも必要ではないかと考えているのですが、その辺の考え方について聞かせてもらえればと思います。

<企画調整課 佐藤主査>

1 点目のトップセールスの話でありますけれども、私個人的には直接市長からそういったお話を聞いたことがありませんでしたので、担当の方にそういう意見があったと、お話を伝えたいと思います。

それから 2 点目の堆肥センターの関係でありますけれども、環境保全型農業といいますか、循環型農業を推進するために、やはりこの堆肥センターというのは基となる施設だと思いますし、また、施設の有効活用といった面から、1つの地域だけではなくて、広い面積がありますので、全体的視野をもって、そういったことを考えながら体制を構築すべきだろうと考えます。また一方で今回の震災によります原発事故、それによって堆肥も中々流通しないという課題も聞いておりますので、その辺についても担当課の方で少しアピールも必要だと思いますし、最初に言ったように市全体で考えていくというのは非常に大事な視点だと思いますので、対応していきたいと思います。

<佐藤会長>

今吉村知事がトップセールスで非常に成果挙げていますし、県のブランドとして非常に頑張っておりますので、県民挙げて市も是非頑張って、私どももバックアップしたいと思いますので、その辺よろしくお願いします。

<企画部長>

トップセールスですが、今、吉村知事というお話もございました。実は榎本市長もあちこち出向いておりまして、様々なイベントにも参加をしております。先ほど創造文化都市関連の食文化のところでもありましたが、これにつきましても産業も含めました食文化都市のネットワークでございますので、先日ソウルのほうに出向いたり、あるいは浜松の方に出向いたり、色々な分野で PR しておりますし、創造文化都市のサミットでも一緒に行ってもらいながら、農産物など物産の販売を頑張っているということで、一言だけお伝えさせていただきたいと思います。直接市長からトップセールスという言葉聞いたことはないのですが、あちらこちらに市長が直接出向いて頑張っているということだけお伝えしたいと思います。

<梅津 久美委員>

総合計画実施計画の 5 ページにあります文化会館の整備についてなんですけれども、中心市街地地区に現代的機能を備えた新文化会館をとということですが、まず、位置については、市役所の近くになるのかはわからないのですが、先日酒田の希望ホールでのコンサートに行ってきたのですけれども、駐車場が無くてとても困ったのです。コンサート等が開かれる施設になれば何百人というお客さんを収容する施設になると思いますので、こういう地方の都市で、電車等で来られる方はいないと思いますので、駐車場の整備、そのホールに見合った駐車場というか、車で行った場合に余裕を持ってイベントに参加できる整備を是非お願いしたいと思います。

<企画調整課 佐藤主査>

貴重なご意見ありがとうございます。

今年度文化会館の建設につきまして、基本計画の策定に向けて現在検討を進めているところでありますので、所管する担当課の方にしっかりと伝えてまいりたいと思います。

<佐藤 繁明委員>

資料の 8 ページですが、鶴岡には先端生命研究所や山大など高等教育機関があって、それぞれ教育の支援をされているわけですが、それぞれ研究されたものの成果、例えば私が知るところだと、柿の渋みであったり、枝豆の美味しさのメカニズムであったり、それぞれいろんな成果が出ているかと思うのですが、それらをもう少し市民というか、現場で仕事をしている人たちに知らせる機会を沢山とって欲しいのです。折角研究しているので、商品開発に結びつくものがあれば、その成果を尚いっそう活かしていける、使えるような仕組みというのを、一步踏み込めるような形でつくっていただくようお願いします。

<企画調整課 佐藤主査>

バイオ研究の関連で今ご指摘いただいたとおり、農産物の機能性の表示といったところで、高付加価値化と言っておりますけれども、例えば柿についてこういった成分があると、他の柿に比べてこの成分が沢山あるので美味しいと、こういった取り組みはしておりますけれども、その辺について PR 不足、情報の不足というご指摘もいただきましたので、それにつきましても所管の方に伝えてまいりたいと思います。

<佐藤 繁明委員>

折角いい研究成果があるのですから、市民が普通に成果を知る機会があればいいかなと思います。

<佐藤会長>

これだけの資料がありますので 1 時間弱では議論をしつくせない感はあるのですが、次の機会を準備していただいて、この件に関してはこの辺で良いでしょうか。

(3) 協議テーマ「観光地羽黒の更なるステップアップを目指して」に係る提言書(案)について

資料に基づき説明

(質疑応答)

<佐藤会長>

提言書という形で提出するわけですが、市長から注目されるように、写真やイラストをいれた構成にした方が良いのではないかと話したのですが、統一した作り方ということで、今回はこういった形で提出するということです。内容については、現状と課題、提言の概要と具体的な意見という形で纏めてありますので、その他意見等ありましたら発言していただきたいと思います。今日の協議が最後となりますので、よろしくお願いします。

<斎藤副会長>

行政が行う観光と、民間が行う観光には多少差があると思います。行政では色んな縛りがあって出来ないことがあります。8 ページの最後に月山を取り巻く他の地域との連携とありますが、実は商工会で観光力研究会というのを組織しまして、そこでやり始めていることなのです。以前アルカディア会議という会議がありまして、月山を取り巻く周辺の市町村が手を繋いで、色んな話をしていくというのがあったのですが、こういうものは行政が

主導すると、まとまりが難しいのですが、観光という 1 点に絞ると非常に集まりやすいという部分がありまして、もう既に何度か集まりをやりまして、実施をしているのです。今年は何年かということ、月山へ登ろうという企画を、それぞれの観光協会を巻き込んで実施しているのです。ですから、非常に乱暴な言い方をしますと、行政がやれない部分を民間がやる場合に、予算をつけて欲しいというのが私のお願いなのです。今すぐには予算をつけられないと思いますけれども、その辺をご理解いただいて、民間のやることに予算を分配していただきたいというのが、提言の 1 つであります。

<林 茂生委員>

現状と課題の中の第 2 番目、観光アクセス道路の整備促進という項目がありますけれども、この中では、羽黒山バイパスの早期完成と載っておりますけれども、提言の概要と内容を見てみますと、早期完成という言葉が無いというわけです。確かに 5 ページにはありますけれども、羽黒山のバイパスが完成すれば、月山ビジターセンターが観光の最高の発信基地になると思うのです。その為には、観光アクセス道路の整備促進という項目の中で、整備促進ではなくて早期完成ということ、大きく載せていただけないかなと思います。整備が始まってから相当年数経っておりますが、中々進んでいない。そういう状況があるようでございますので、3 ページの整備促進、6 ページの羽黒山バイパスの整備促進とありますけれども、早期完成として大体何時ごろまで出来るのかと、その辺もはっきり明記していただくことによって、ますます出羽三山の色んな効果、先ほど斎藤さんから言われました、他の観光地との連携の関係も大きく繋がっていくのではないかと思いますので、整備促進ではなくではなく、力強い言葉を入れていただければと思います。

<佐藤会長>

羽黒山のバイパスも地すべり対策が結構あるらしいのです。そのことで遅れているようですが、そういったことであれば、広報などで進捗度などを提示してもらいたいと要望したのですが、今、林さんから出たように、何時完成だといった形を織り込んでいただきたいので、ひとつよろしくをお願いします。

<山田 鉄哉委員>

何年前でしょうか。松ヶ岡と櫛引の伝習館を繋ぐ道路を作ると。そんなことで 20 何年前ですけれども松浦県議が居た時代に、頑張りますということで、羽黒のほうからは大坂山まで、伝習館からは成沢道路まで出来たのですが、その中間がまだ繋がっていない。そんな半端な道路になっているわけで、羽黒の観光にやってくる人は、羽黒橋を渡る人、鶴羽橋を渡る人、それから狩川の方から入ってくる人、立谷沢の方から入ってくる人とかいるわけですが、そういう関係で言うと、櫛引の方から入ってくるのはスーパー農道か 112 号か。よく松ヶ岡に来られる方とかは、農作業中にも関わらず、コンバイン等を停めてまで皆聞くものですから、もっとわかり易い道路、道路標識、それと櫛引の伝習館との道路も是非早く繋げてもらいたいなど考えておりました。

<佐藤会長>

道路関係についても積極的に提言していきたいと思いますので、よろしく願います。

<本間 信一委員>

前回の審議会の中で発言されたことがだいぶ盛り込まれているということですので、概ね良いかなと思っております。ただ、少し気になるのが5ページの新たな観光資源、観光メニューの推進の2つ目、これもこの間発言されたことで良いわけですが、文章を読みますと、斎館や宿坊の精進料理だけでなくとなっていますが、それは当然メジャーになっていますが、だけでなくというのが気になるというのと。もう1つお母さん方が地元の伝習料理の出店、販売などとなっていますが、何処ですののだといったときに、ふれあいハウスは今土日に営業していますよね。ふれあいハウスとか、活性化センターもあるわけですので、それらを上手く活用して、グループで良いと思いますけれども、そこで出店やイベント、あるいは土日だけでも良いと思うのですが、そこで観光に来た人に昼食などを出すような、そういう仕組みも良いのかなど。その人たちもそれじゃやるかと、そういう気持ちにもなると。市の施設でありますので、ふれあいハウスはジンギスカンをやっていますけれども、活性化センターに調理場があったかどうか定かではないのですが、そういう整備をして営業にこぎつけていく、その辺も検討の対象にさせていただければと思います。文書化については、今すぐは出来ないと思いますけれども、上手く市の施設を使いながら、そこで行動を起こしてもらおうといった提言も必要かなと思いますので、検討していただければと思います。

<太谷 真一委員>

7ページですけれども、手向地域の歴史的風致のPRと整備の件ですけれども、手向地区にある蝦夷館公園の整備について提言したいと思います。春には八重桜の名所として各地からたくさん人が見物しに来ているようですが、桜は10日前後で見ごろは終わってしまいます。それで春から秋まで咲く様々な花を植えて、花壇を造ることを要望します。また、散策道路の整備ですが、段差の少ない舗装路にして、誰でも1周出来る道路にして、軽スポーツの出来る施設を作っていただきたい。また、遊具についてですけれども、年数が経っています。新しいものにして、楽しみのある場所にして羽黒地域有数の遊園地にしていただきたいと要望します。このことは合併前ですけれども、億のお金を使ってあそこを作ったと聞いております。それらの金を出来るだけ無駄にしないようにして、歴史的なものもあそこにはありますので、これからも是非活かしていただきたいと提言します。見ますと、この中に蝦夷館公園の件は載っていないような気がしますので、是非お願いしたいと思います。

<佐藤 繁明委員>

先ほど松ヶ岡の記載が少ないのではないかとおっしゃっていましたが、私もそう思います。7ページの大項目の4の映画を活用した地域の活性化云々、あと5番の多様化するニーズ云々、オープンセットもそうですし、宿坊もそうですし、あと松ヶ岡のクラフトフェアとか、色んな催し物と四季折々の景観とか、歴史的なもの、そういうものをセッ

トにして羽黒に来る方は非常に多いわけですから、松ヶ岡に来て、じゃあオープンセットに行こうか、そして帰りに手向の方から下ってこようかとか、そういう風に線につなげて行動する方が多くいるので、松ヶ岡のことを映画村に絞った形ではなくて、線にして記述していただけるととても良いものになるのではないかと思います。

<佐藤会長>

いわゆる着地型観光と言いまして、点ではなくてルートを繋げていくと町内全部見られるという観光地、そういったルートの開発も必要ではないかと思しますので、その辺含めてひとつよろしくをお願いします。

<星野 博委員>

6ページにもてなしの気持ちという言葉が書いてありますけれども、もてなしという言葉は必ずしもお客様に対応するというだけでなく、ご案内するという意味もあると考えています。案内看板1つとってもそうです。例えば月山から湯殿山に降りてきて参拝をして鶴岡まで帰るといった場合、神社から仙人沢までバスがあります、それから鶴岡まではこうしたら行けます、といった案内的なものが一切ありませんので、どうやって帰ったら良いのかと悩まれるわけです。悩ますこと自体が我々のミスではないかなと思っております。また、手向の随神門前にも神社で設置した看板があるのですが、石段と帰りの距離が同じに書かれていて、有料道路を歩いて帰ってくる方もおられるわけです。なので、我々が何回もお客さんを拾って随神門まで届けるわけですが、もてなすという言葉には案内するという意味もあるのではないのでしょうか。

また、今年は卯年御縁年ということで、丑年御縁年の年もそうでしたが、今年はクラブツーリズムのお客さんが大変多くございました。1日に観光バス3~4台のお客さんをご案内するというので、羽黒山または月山の8合目を案内したわけですが、その対応にあたりましては、いでは文化記念館には大変感謝申し上げなければなりません。あれだけの内容を振り分けていただきながら、頑張っていたいただきました。そんな中で我々がガイドということで案内させていただいたということかもしれませんが、実際には我々サイドでやらなければならないことを、いでは文化記念館にやっていただいたということ、地元の人間として感謝申し上げたい。伊藤賢一君を本所のほうに持っていかれると困るわけですが、本当に彼が居なかったらどうしようもなかったのではないかなと思っております。また今後午年も来るわけでございますので、その対応について、地元として将来的な展望も含め考えていかなければならないと思っておりますので、是非とも、いでは文化記念館のあり方に対しても、もう1回行政の方でオーソライズしていただき、我々も協力していきたいと思っておりますし、いでは文化記念館と一緒に進んでいきたいと思っておりますので、是非いでは文化記念館のあり方については、本当に行政の方でも考えていただければと思っておりますので、よろしくをお願いします。

<佐藤会長>

羽黒はやはり文化遺産の宝庫ですよ。そういったものを如何に活かしていくか、周り

の人は、羽黒は良いというのですが、住んでいる僕たちに熱心さが無いと言われておりますので、その辺も含めてやっていきたいと思えます。

看板に関しては、既存の看板が古くなって見た目も悪くなったので更新と記載されておりますが、羽黒橋を渡ってきて最初の左側に五重塔の看板が見えますが、あれは綺麗なのですが、三橋のほら貝の看板、あれが古いですね。私は行くたびに、観光に来た人に対して非常にイメージが悪いのではないかと思います、これは提言するまでもなく、すぐに直すべきなのじゃないかなと思っているのですが。

<太谷 真一委員>

下の方に書いてありますが、その看板はライオンズクラブで作ったものですので、こちらにお願いすれば何とかなるんじゃないかとは思えます。

<佐藤会長>

提言書については、大体上手くまとめてあると思えますので、今日出された意見を参考に、修正なり付け加えるなりして、もう一度整理していただければと思えますが、その辺については総務課長どうですか。

<総務課長>

もう1度整理して会長、副会長にご相談させていただきます。

<佐藤会長>

市の方からは、是非この提言書を参考にして事業計画を作っていただいて、また審議会に提案してもらいたいと思えますし、前回の審議会で本間委員が言われたように、提言書に載せたイベント等を誰がやるのか、羽黒には発信地がいっぱいありますので、まとめ役というか、強力なリーダーをはっきり決めて、庁舎を中心に実行してもらって、羽黒地域を活性化させていただきたいと思えます。

委員の皆さんからは、昨年からこのような形でお集まりいただき、審議していただき本当にありがとうございました。

(4) その他

特に意見なし。

4 閉 会 (11時45分) 総務課長